

2010年 日本財団助成事業

耕作放棄地再生と人の心の再生を！「箱根西麓・援農隊」の結成

(NPO法人 グラウンドワーク三島)

1. 事業名

耕作放棄地再生と人の心の再生を！「箱根西麓・援農隊」の結成

2. 目的

都市住民による「箱根西麓・援農隊」を結成し、耕作放棄地を活用した「三島そば」の栽培による地域ブランドの創出や、放置竹林の竹材の活用を図るとともに、子どもや少年、シニアなどの多様な世代と地域農業者が交流する、新たな援農システムを構築する。

さらに、更生保護団体などの青少年健全育成団体と連携し、周りから孤立しがちな非行少年などを積極的に受け入れ、農地の再生を通じて少年たちの心の再生を図り、誰もが自立して暮らすことのできる地域社会づくりの一翼を担う「共助」のしくみづくりを目指す。

3. 事業内容

「箱根西麓・援農隊」を結成し、箱根西麓地域を中心に、①耕作放棄地を活用した「三島そば」、「三島大豆」の栽培と、②放置竹林の再生活動・間伐材活用を行った。

時期：2010年5月～2010年2月 (参加者募集：6月、10月に実施)

①耕作放棄地を活用した「三島そば」「三島大豆」栽培

■「三島そば」 場所：三島市三ツ谷 (2,000m²)

- ・草刈り、石灰散布：7月10日 (25名参加)
- ・堆肥・肥料散布、耕うん：8月3日 (10名)、8月10日 (11名参加)
- ・種まき：8月21日 (16名参加)
- ・収穫、脱穀：11月6日 (16名参加)、11月7日 (6名参加)
- ・とうみがけ、実の選別：11月13日 (12名参加)、12月1日 (6名参加)



【草刈り・石灰散布】



【耕うん】



【堆肥・肥料散布】



【種まき】



【種まき ごんべえ 使用】



【収穫】



【脱穀】



【とうみがけ】



【実の選別】

■ 「三島大豆」 場所：三島市御園（2,000m²）

- ・ 肥料・石灰散布：7月4日（7名参加）
- ・ 大豆種まき：7月26日（11名参加）
- ・ 除草、草刈り：8月23日（13名参加）、8月29日（8名参加）
- ・ 収穫：10月26日（5名参加）
- ・ 収穫後の片づけ、整地：11月17日（9名参加）



【肥料・石灰散布】



【種まき】



【除草、草刈り】



【除草、草刈り】



【収穫】



【収穫後 整地】

②放置竹林の再生活動・間伐材活用 場所：三島市大場（0.3ha）

・間伐作業：11月14日（19名参加）、11月27日（15名参加）、12月10日（6名参加）、
2月26日（7名参加）

・竹製品製作：11月14日（10名）、毎週火曜（述べ40名）



【間伐作業】



【間伐作業】



【竹製品製作】



【竹製品製作】

4. 事業目標の達成状況

①三島市内でのポスター掲示や、チラシ配布また新聞折込みなどの広報を、市内の住民に広く行い、述べ300名の参加者が集う結果となった。さらに、周辺の中学校の生徒や、静岡県BBS連盟三島地区BBS会など、他団体からの参加もいただき、幅広い世代と経験・知識を持ち合わせた多様な隊員たちが触れ合う機会を提供することができた。

②当初の目標以上の耕作放棄地4,000m²を活用し、地域の農業従事者・専門家の協力を得て、「三島そば」の生産と、また、新たな地域ブランドとしての「三島大豆」等の栽培に、新たに取り組むことができた。

③天候や地形等によって、農作業は左右されるため、プログラムやスケジュールの変更を余儀なくされることがあった。また、無農薬栽培への取り組みと、栽培面積の拡大により、耕うんや除草作業に予想以上の労働力が必要となった。適切な管理のために、大型農機を導入し、人力と併用した活動計画が望まれる。

④全国的に進行しつつある深刻な放置竹林の拡大と里山喪失を抑止し、資源としての活用、またコミュニティ・ビジネスの創業を視野に入れ、三島市大場地区の放置竹林(0.3ha)の間伐作業を実施した。

5. 事業成果

①種まきから収穫までの一連の作業を体験することで、農作物の生産に対する遣り甲斐、達成感を感じ、援農活動への参加意識が高められた。今後、この参加者同士のネットワークの継続・強化を図り、更なる援農活動の発展を目指したい。また、農作業は、年間を通じ定期的な畑の見回りや維持管理など様々あり、より実践的な農作業が学べられるようこれらの定期的な作業を活動プログラムに盛り込み、参加を促したい。

②鍬や鎌などの農機具の使い方や手入れの方法などの農業技術を習得できるよう実習を行ったため、市街地に住む市民の中には、新たなレクリエーションとして、家庭菜園に個人で取り組む参加者も出現した。

③放置竹林の存在を知らない参加者が多く、身近に存在する環境問題について広く周知することができた。後継者不足と里山保全の担い手の減少は、三島市でも進行しており、今後の荒廃竹林の再生活動はさらに求められる分野である。間伐前は日光が入らない竹林だったが、竹林整備後に日照量が増え、これを見た隣接の竹林の持ち主から間伐の依頼を受け、今後そちらも展開していく予定である。